

医者がいなくなる日 / 勝ち残る診療所のとるべき戦略ポイント5

CLINIC 今日と明日の開業医をサポートする ——最新クリニック総合情報誌

BAMBOO

ばんぼう

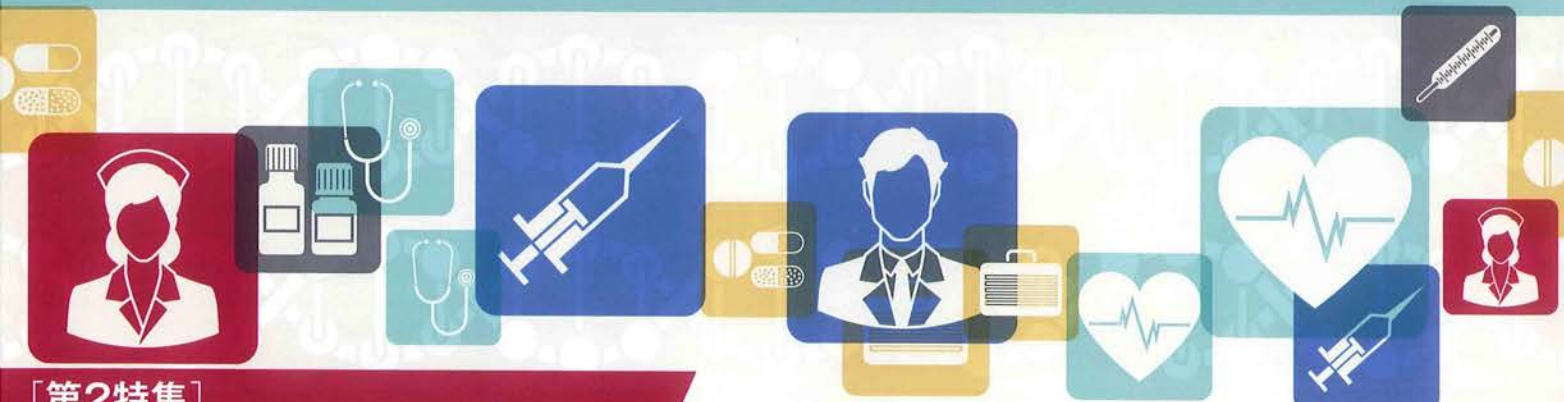
1

JAN.2014
VOL.394
定価1,020^{YEN}



【特集】開業医の真価が問われる

医者がいなくなる日



【第2特集】

14年度改定前に押さえておきたい
勝ち残る診療所の
とるべき戦略ポイント5

The MASTER of Clinic

小野宏志

坂の上ファミリークリニック 院長

平成26年1月1日発行 通巻394号 毎月1回1日発行 昭和58年2月14日第二種郵便物認可 ISSN・0912-8662

株式会社インディバ・ジャパン▼高周波温熱機器

教育体制を充実させ
ユーザーへのサポートに注力

株式会社インディバ・ジャパン（本社：東京都目黒区、出雲薫代表取締役社長）は、1995年の設立以来、高周波温熱機器「インディバ」の輸入・販売を手掛けており、美容分野を中心に高いシェアを誇る。さらに、スポーツセラピーや鍼灸、整骨分野に特化した医療用機器「インディバ・アクティブ」を展開し、整形外科を中心とする診療所の差別化戦略にも「役員」を買っている。同社は「教育体制あつての販売」を基本理念としており、ユーザーに向けた講習や新たな活用法の提案などにも力を注いでいる。

早期回復・疼痛緩和など
即効性に高い評価

株式会社インディバ・ジャパンが輸入・販売を行う「インディバ」は、電気メスの発明者であるスペインの物理学博士ホセ・カルベッソ氏が開発した、安全な周波数の高周波を用いて細胞に働きかけ、体内に熱を発生させる高周波温熱機器。基礎代謝の向上、活性酸素の除去に効果を発揮するため、形成外科や美容外科、エステの領域では高いシェアを誇っている。さ



「インディバ」はどの分野からもアプローチが可能

らに5年前からは、同機器をスポーツセラピーや鍼灸、整骨分野に特化した医療用機器「インディバ・アクティブ」を販売している。

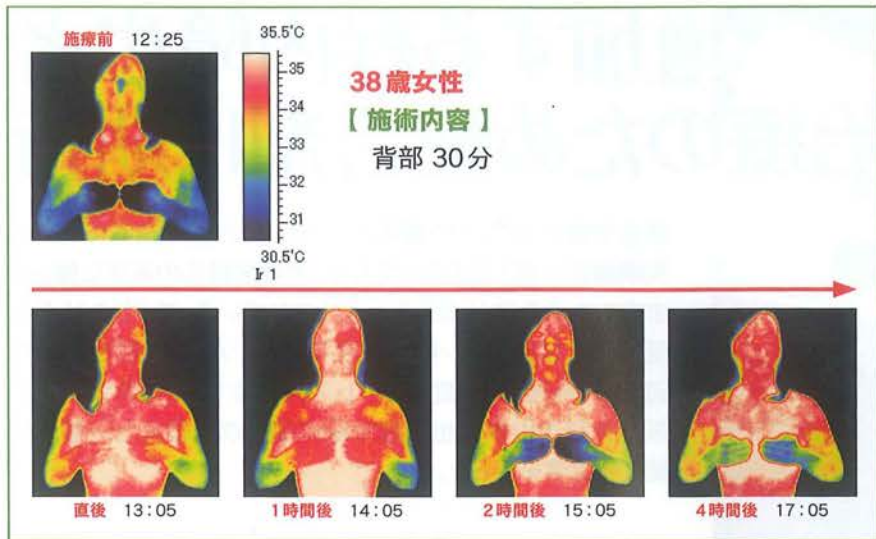
同機器の効果は、①早期の疼痛緩和、②障害や炎症からの回復、③コンディショニングの3つ。とりわけ①、②については、筋断裂や骨折といった急性期の損傷でも痛みが和らぐと評判だという。山口祐司代表取締役会長は、「ヨーロッパでは多様な競技のトップアスリートに利用いただいております。即効性があると高い評価を得ています。日本国内においても、プロ野球やJリーグをはじめとするさまざまなスポーツチームで導入いただいております」と胸を張る。



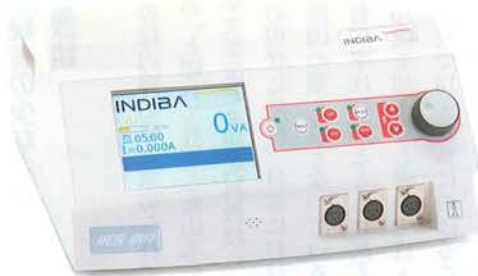
「教育体制あつての販売」を理念に掲げる山口祐司代表取締役会長

また最近では、整形外科診療所での導入も進んでいる。多くの整形外科では高齢者がメインの患者層となっているため、接骨院や鍼灸院、マッサージも含めて競争が激化している。そのため、差別化

Basic DATA
株式会社 インディバ・ジャパン
東京都目黒区碑文谷5-15-1
TEL: 03-5768-8871
http://www.indiba.co.jp



施術後も長時間温かさが持続するのは「インディバ」独自の「深部加温」ならではの



スポーツ・鍼灸分野専用機器「インディバ・アクティブ HCR801」



350人規模で開催される「インディバ・コンベンション」では、毎年新しい有用性などが発表されている

ロコモやアンチエイジング 新たなサービスの提案が魅力

戦略の一環として同機器を導入するケースも少なくない。実際に導入している開業医からは、スポーツ整形などの展開といった競合との差別化につながるほか、機器の評判が口コミで広がったことによる新患の獲得にも威力を発揮しているとの声も聞かれている。

「当社では、『教育体制あつての販売』を基本理念としています」と、山口代表取締役会長が話すように、ユーザーへの教育体制を充実させていることが同社の大きな特徴の1つだ。販売方式をすべて直販とし、購入したユーザーに対して機器に関する知識の習得や使用方法をきちんとレクチャーするだけでなく、スタッフの取得資格の種類や技術力に合わせた施術メニューの提案に力を注いでいるのだ。このほか、定期的な講習会を実施しており、ユー

ザー同士との交流や意見交換の場づくりも実施している。こうした取り組みを支えているのが現在14人在籍しているインストラクターと呼ばれるスタッフだ。基礎知識の習得支援や実技指導、各種提案などを行う役割を担っており、ユーザーが同機器を有効に活用する手助けをしている。

山口代表取締役会長は、「せっかく導入いただいても、うまく使っていたりしては意味がありません。長期の保証に加え、継続的な講習、さまざまな特別講習はすべて無料で行っており、機器の有する機能性や有用性、応用性を幅広く学んでいただく体制を優先することで、ユーザーの発展につな

げていきたいと思っています」とその思いを語る。

今後の展望として、医療機関に対する新たな施術メニューの提案をさらに強化していきたいと話す山口代表取締役会長。たとえば、近年、介護予防の観点から着目されているロコモティブシンドロームなどへの活用なども視野に入れているという。

「高齢化が進んでいる状況において、医療機関が取り組むべき課題としてロコモ対策は必須といえるのではないのでしょうか。このほか、アンチエイジングも重要な分野の1つと位置付けられます。インディバはもともと美容分野で発展してきたため、さまざまなノウハウが蓄積しています。新たな患者層の獲得を見据えて理美容系の自由診療のサービスを行う際にもお手伝いができると考えています」（山口代表取締役会長）

機器の性能の高さを追求するだけではなく、顧客をトータルにサポートするための教育体制を整えている同社。診療所を取り巻く経営環境が厳しくなるなか、開業医にとって有力なパートナーとなるだろう。